



◀ WEBアンケート

[https://docs.google.com/forms/d/1bFF\\_1McNf9UEn3-7WT31Mey4fo42yuCFM4pqEl7Lw-Y/edit](https://docs.google.com/forms/d/1bFF_1McNf9UEn3-7WT31Mey4fo42yuCFM4pqEl7Lw-Y/edit)



◀ めぐるたかさきダウンロード

<http://takasaki-jc.com/download/>

主催 公益社団法人高崎青年会議所

〒370-0006 高崎市問屋町 2-7-8 高崎商工会議所ビル 405号  
TEL.027-361-7604 FAX.027-362-9578 URL.<http://takasaki-jc.com> MAIL.[info@takasaki-jc.com](mailto:info@takasaki-jc.com)  
地域デザイン探究委員会 10月委員会事業

制作者：公益社団法人高崎青年会議所  
本冊子に関する知的財産権は、すべて公益社団法人高崎青年会議所に属します。  
知的財産権は放棄していませんが、どなたでも、非営利目的に限り複製等の利用が可能です。  
WEBアンケート及びめぐるたかさきダウンロードは予告なく終了する場合があります。

後援：株式会社上毛新聞社・株式会社 エフエム群馬・株式会社ラジオ高崎

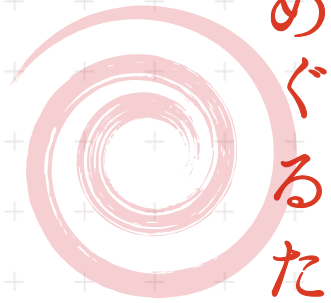
高崎青年会議所 検索

JCI Junior Chamber International Takasaki

めぐる  
たかさき



故きを  
温ねて  
新しきを  
創る



めぐるとかさき



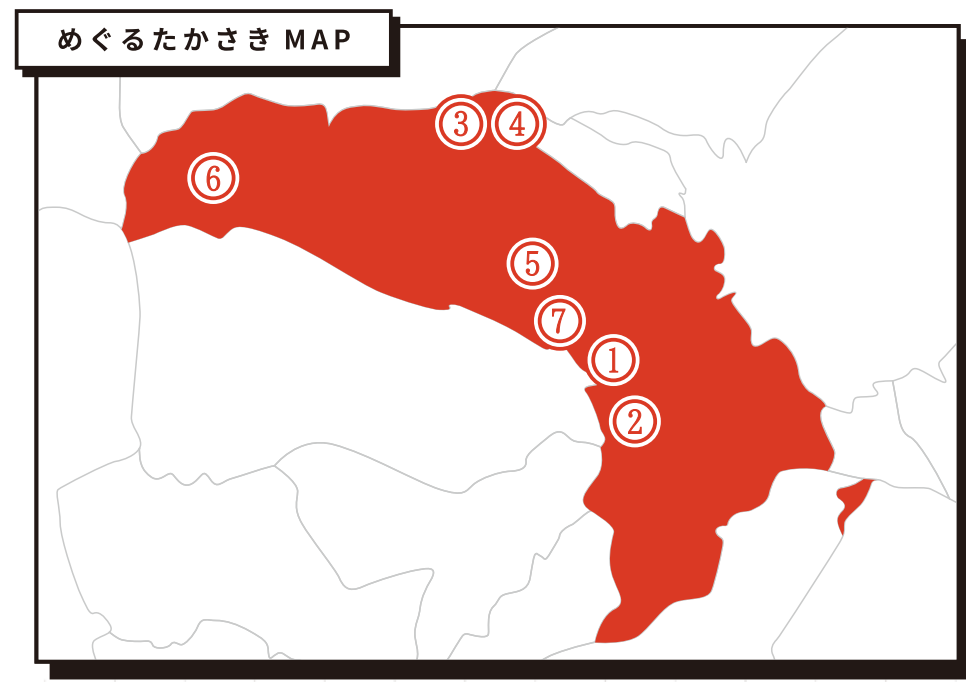
故きを  
温ねて  
新しきを  
創る

私たち公益社団法人高崎青年会議所・地域デザイン探究委員会では、1月の新年フォーラムで「d design travel」の編集長のナガオカケンメイ氏を講師にお招きし、地方の魅力を発信することについての考えや意見を伺いました。その上で検討を重ね、この度、高崎の魅力を発信するためのガイド「めぐるとかさき」を制作しました。

本冊子で紹介している場所・ものには、

- ① 委員会メンバーが実際に該当場所を来訪して体験する。
- ② その土地に根ざしている。
- ③ その場所に委員会メンバー自身が対外的に発信したい、紹介したいという魅力がある。という特徴があります。

高崎には魅力ある場所、ものがたくさんあります。  
家族と、ひとりで、ぶらっと出かけてみませんか。



- ① 黄檗宗 少林山達磨寺 | 高崎市鼻高町 296 観光ルート 01 ▶ P003~
- ② ケルナー広場・観音山公園 | 高崎市石原町 2740-2 観光ルート 02 ▶ P005~
- ③ 榛名神社 | 高崎市榛名山町 849 観光ルート 03 ▶ P007~
- ④ 門前そば | 榛名神社前 観光ルート 04 ▶ P009
- ⑤ JAMCOVER VILLAGE | 高崎市下室田町 1686 観光ルート 05 ▶ P010~
- ⑥ はまゆう山荘 | 高崎市倉淵町川浦 27-80 観光ルート 06 ▶ P011~
- ⑦ Albero./ Regalo×Regale | 高崎市下里見町 1701-1 観光ルート 07 ▶ P013~

ルート外インタビュー

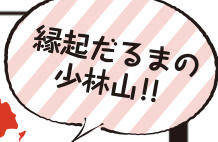
- KDダルマ / 株式会社エムケイ製作所 松本陽平さん P015~
- デザイナーズだるま / 株式会社今井だるま店 NAYA 代表取締役 今井裕久さん P017~
- DARUMA-CUBE / 有限会社山崎製作所 代表取締役 山崎将臣さん P019~

観光ルート 01

START

9:00 - 黄檗宗少林山達磨寺

(おうばくしゅうしょうりんざんだるまじ、高崎市鼻高町 296)  
閉門なし(寺務所及びお礼場の開設時間、招福の鐘は午前9時から午後5時まで)



縁起だるまの  
少林山!!



高崎と言えば縁起だるま、縁起だるまといえば少林山と連想される方は多いと思いますが、その由来までご存じの方は少ないのではないのでしょうか。

今から 300 年ほど前、現在の少林山達磨寺がある地は前橋藩の領地（飛地）でしたが、一了居士（いちりょうこじ）という老行者が彫り上げた達磨大師の座禅像の噂を聞きつけた前橋藩のお殿様が、前橋城の裏鬼門にあたるこの場所にお寺を建立したいと考えました。江戸時代は新しいお寺を建てることが禁止されていましたが、水戸光圀公のご尽力もあり、禅の道場として始まった後、1731 年に寺院に昇格しました。



少林山達磨寺の山内図。だるまがたくさん安置されている霊符堂が最も有名だが、その他にも見るべき場所がたくさんあり、寺院全体がパワースポットとしても知られている。



霊符堂隣にある達磨堂内にある達磨大師座像。現存する像は前橋市の福島紋七氏が寄贈したもので、二代目。

毎年1月6日と7日に開催されるお祭りは、1697年の開山当時より本尊の「北辰鎮宅霊符尊」（ほくしんちんたくれいふそん）が降臨する縁日（七草大祭）として行われていました。そこに9代目の東嶽和尚が伝えただるまが売り出されたのが今日の七草大祭だるま市の始まりです。

少林山達磨寺は、ドイツの建築家であるブルーノ・タウトとも深いつながりがあります。ブルーノ・タウトは世界的な建築家で、設計したベルリンにあるジードルンク（集合住宅）は世界遺産になっています。ナチスの迫害を避けるために日本に亡命し、その後井上房一郎氏の招きで高崎に移り、約2年3か月の間、お寺の境内にある洗心亭（せんしんてい）で過ごしていました。



ブルーノ・タウトが多くの時間を過ごした洗心亭。現在も当時の姿を止めている。



復刻されたブルーノ・タウトの椅子。3Dスキャンによって再現した立体データを基に制作された。今後は販売も予定されている。



ブルーノ・タウトは、日本では建築活動はできず、工芸品を作ることが多かったようです。竹、和紙、漆器などの日本の素材を活かして作品を発表し、それを井上房一郎氏が銀座と軽井沢に出店した工芸品店「ミテラス」で販売していました。

お話をしてくださった廣瀬一真副住職は、「山形の天童木工や工学院大学建築学部の鈴木敏彦教授と共同でブルーノ・タウトの椅子を復刻し、当時できなかった曲げ木の技術の研究をして完成、販売している。ブルーノ・タウトの残した工芸品や試作品もあるので、将来的には寺の宝物やブルーノ・タウトの資料を集めた資料館を作りたい。」とおっしゃっていました。

達磨堂裏の「だるだる」では、通常お寺に備えてあるお札以外に、各種達磨グッズが用意されています。縁起だるまの総本山ともいべき少林山達磨寺ではやはりだるま「さん」に拘りがあり、商品としてではなくお札やお守りと同じ授与品としてとらえ、お経を読み開眼をしてお渡しするなどしているそうです。

めぐるとかさき  
故きを温ねて  
新しきを創る

### 観光ルート 02

10:00 - **ケルナー広場** (観音山公園)  
(高崎市石原町 2740-2) 開園時間 9:00~17:00



汚れます!  
笑います!  
おなが  
がす  
ぎます!



観音山公園内のケルナー広場は、遊具のデザインで世界的に著名なドイツのデザイナー、ハンス・ゲオルク・ケルナーさんが手がけた遊具の広場です。この地では、1952年に戦後復興の一環として「新日本高崎子ども博覧会」が開催されました。博覧会終了後は使用された遊具の一部を使い市営遊園地として運営されていましたが、1961年に上信電鉄が経営を引き継いで「高崎フェアリーランド」として開園、その後「カッパピア」に改称し北関東を代表する遊園地として親しまれてきました。カッパピアは2003年に閉園し、その後数年間廃墟となっていました。2008年に高崎市が跡地を購入し、2016年に一部をケルナー広場として開園させました。2017年には観音山公園の整備として広場下にプールも含めたエリアがオープン、2018年の3月にはケルナー広場も拡張されています。

現在、ケルナー広場は「NPO 法人 時をつむぐ会」が管理しています。ケルナー広場管理のリーダーである横山

由美子さんによれば、横山さんたちは、カッパピアの跡地を、伝統を受け継ぐ意味でも子どもたちの遊び場にしたいと考えて、高崎市に対し、跡地利用について冒険広場、どろんこ広場などいろいろな提案をされたそうです。その中で最終的にケルナー広場の案を受け入れてもらうことができ、その結果、ケルナーさんが手がけた世界各地にある遊具広場の中でも世界最大級であるケルナー広場が誕生したそうです。



ケルナーさんは、かつてのカッパピアに敬意を表し、カッパピアを忘れないで欲しいという想いを込めて、かつてあった遊具から着想した新しい遊具を設置した。写真はその模型。

横山さんはケルナー広場について、以下のようにお話しされていました。「日本では、子どもがけがをしてしまうこと等を理由に公園から遊具が次々と撤去されてしまいました。遊具が撤去されれば子どもたちが遊具で怪我をすることはなくなりますが、子どもたちが怪我の危険性を学ぶ機会も失われてしまいます。ケルナー広場で遊ぶことで、危険予知能力や体力を向上させて欲しいと思います。」  
「ただ、できるだけ子どもたちが怪我をしないように配慮もしています。たとえば、ケルナー広場の遊具は、遊具に昇るための1段目が高く設定されているという特徴があります。『1段目を自分で昇れる子どもはその遊具で遊べます』という仕掛けです。私たちとしてはあくまでも安全第一で管理に努めていますが、それとあわせて、子どもたち自身の判断と責任を尊重したいと思っています。自分の力で動くことにより、五感の能力を向上させて欲しいです。」

横山さんたちはカッパピアの廃墟であった時代からこの地を子どもたちの遊び場にするべく粘り強く活動されており、そこには拘りと情熱が感じられました。



ケルナー広場の遊具。ガラクタを組み合わせたような外観で子どもたちが体格に合わせて昇ったりくぐり抜けたりできるようにになっている。



現在も観音山公園内に設置されている石像。「昭和27年子ども博覧会」と記載されている。



一番人気の大きな滑り台。真夏は子どもたちがやけどをしないよう日よけが設置されている。



遊具には全てケルナー社の遊具であることを示すプレートが設置されている。

めぐるたかさき 故きを温ねて新しきを創る

観光ルート 03



11:30 - **榛名神社** (高崎市榛名山町 849)

拝観時間 7:00~18:00 (冬季は 17:00 まで)

第31代用明天皇(585~587)の時代に創建された歴史ある神社で、現在、群馬県内にある文化財の修復事業としては過去最大規模となる総額23億円をかけての大修繕が行われています。本殿は、御姿岩(みすがたいわ)の前面に接して建てられたたいへん珍しい建物です。御姿岩内の洞窟を神聖な本殿として御神体が祀られています。その他瓶子の滝(みすずのたき)、矢立杉(やたてすぎ)などもパワースポットとして有名です。



700メートルほど続く本殿までの参道。澄んだ空気の中進んでいくと身も心も洗われた気分になります。七福神が点在していたり、滝が流れていたり長い道のりに飽きることはありません。水琴窟は地下の甕(かめ)に落ちる水の反響を楽しめます。とても心地が良くきれいな音なのでぜひ訪れた際には竹筒に耳を当ててみてください。



参道後半右手に見えてくる梅専門店みそぎ屋。自家農園で育てた梅の加工品を中心に売っています。レポーター上原のお気に入り梅酢。落ちつきたいときにはお湯で割る、二日酔いの朝には水で割るという、行ったら必ず買う一品。レジではお店の方が活用レシピを丁寧に教えてくれました。夏場はさっぱりドレッシングにも!と勧めてくださいました。



小腹が減ったなあと思いながら目に飛び込んだのは「開運みそぎ饅頭」。お土産としても人気が高く、色違いの饅頭の中には甘く加工された青梅と赤梅がそれぞれ入っており、とても美味しかったです。お土産にも最適です。



めぐるとかさき  
故きを温ねて新しきを創る

途中寄り道をしてしまったので30分かかりましたが本殿へ。御祈祷受付は8:45~15:15。今、流行りの御朱印をいただいている方も多く見られました。



本殿は文化3年(1806年)に建てられ、国の重要文化財にも指定されています。本殿は背後の「御姿岩(みすがたいわ)」とつながっていて、その岩の洞窟内にご神体が祀られています。正面から見たときにはわからなかったのですが、右手に回ってみると建物が岩に食い込んでいるように見えます。岩を見上げると、上部には今にも落ちてきそうな岩があります。これを見ただけでも不思議なパワーを感じることができます。取材班もしっかり、お参りしてきました。



帰りの道中、石碑が目につきました。赤い石が埋め込まれているこの石碑は「トマト種子特産の碑」です。現在のおいしいトマトの基となったF1(えふいち)という種子ができた由来を記した碑で、トマト生産へのご加護と隆盛を願って五穀豊穡の神である榛名神社に建てられました。

その近くには「ハケ・ブラシ塚」の石碑。使われなくなったハケやブラシを供養するための塚です。その横には回収する感謝焼納所があり、中にはたくさんさんのブラシが入っていました。仕事柄使う方も納めに来るそうですが、大量生産、大量消費の時代であります。ものを大切に使う、感謝をして捨てるというのはとても大切なことだなあと感じました。

他にも参道には左右にいろいろな見どころが点在していますので、お参りの中で自分のお気に入りスポットを探してみてください。(左の写真はレポーター上原のおすすめスポット九折岩(くづらいわ)と榛名川上流砂防堰堤)



観光ルート 04



江戸時代から続く  
おもてなし

12:30 - 門前そば (榛名神社前)

榛名神社前には複数のそば店があり、週末は観光客で賑わいます。

門前そばの歴史

榛名神社前の門前そばは、江戸時代に榛名神社を崇拝する「榛名講」の人たちが参詣に訪れた際に、もてなし料理として振舞っていたことがはじまりです。そば粉は榛名神社の一の鳥居の周辺で栽培されており、昼夜の寒暖差が大きいため、おいしいそばを作るのに適しています。宮司が豊作祈願をした後に、鳥帽子姿の農家の人たちが種まきを行い、観光協会と契約した地元農家の方が大事に育てます。



私たちが訪れたのは本坊というお店です。なぜここに決めたかという、さばきたてのイワナを塩焼きで食べられるから。見学もさせてもらいました。

お店の裏手にはいけすがあり、元氣よくイワナが泳いでいます。それを店員さんが捕まえます。そして、すぐさまさばき、串に刺して囲炉裏で塩焼きにしてくれます。「いつの時期がおいしいですか?」と質問すると「養殖なので時期は特にはないけど、秋には子を持つ。イワナの卵は珍味なんです。ただ、開いてみないと卵があるかはわからないので当たればラッキーなんです。ぜひ、また秋に食べに来てください。」と教えて下さいました。川魚の苦手なレポーター堀口も新鮮なイワナの塩焼きは箸がとまりませんでした。もちろん、お蕎麦も、山の幸の天ぷらもとてもおいしかったです。

榛名神社前には、今回ご紹介した本坊さん以外にも魅力的なお店がたくさんあります。お参りの前後に訪ねてください。

観光ルート 05



世界の雑貨を  
高崎で。

14:00 - JAMCOVER VILLAGE (高崎市下室田町 1686)

雑貨棟 11:00~19:00 おやつ棟 11:30~18:00



下北沢にあった雑貨屋さんJAMCOVER。こだわり派の雑貨好きにはたまらない名店でした。

下北沢から馬喰町に移転した後、高崎の八幡で営業をしていましたが、新たに自然豊かな下室田町にてJAMCOVER VILLAGEとして開村!

かわいい小さな村のようなたたずまいの3つの建物は、雑貨棟・おやつ棟・トイレ棟です。



緑の屋根の雑貨棟には、生活雑貨からビンテージ物の雑貨まで多彩な商品が並んでいます。定期的に個展や企画展を催されているのでいつ訪れても楽しいです。そしてJAMCOVERから生まれた洋服ブランド「Petit jam」の洋服もたくさん。子供服も多数あり、お気に入りを見つけることができます!

青い屋根のおやつ棟には、日本各地のご当地おやつや海外のものまで種類は豊富。さらにはラーメンやカレー、うどん、そば、スープや調味料など驚くほどのご当地食品が集結しています。作家さんの手作りおやつも並んでいます。レポーター田島のおすすめはしっとりとしたカレーせんべいとわさびチーズのディップ、それにお店オリジナルの燻製した柿ピーナッツ。どれもちょっとしたおつまみにぴったりです。



めぐるたかさき  
故きを温ねて  
新しきを創る

おやつ棟の商品は、半分が定番商品、半分がその都度入れている商品だそうです。食品は、見ればわかる雑貨と違って食べてみなければ価値がわからないので、一定水準以上の味のものを取りそろえることが信頼の源泉になると考え、試食をしてパッケージと味の両方が優れているものを仕入れるようにしているとのことでした。



JAMCOVER VILLAGEの小沢さんによれば、現在では何でもインターネットを通じて買うことができると思われがちだがそうではない商品も実はたくさんあり、そういった商品を中心に取りそろえているということでした。またこの地に移転した理由は、小沢さんが旧榛名町のご出身であることと、日常と非日常の間の場所にしかかったこと（決して都会ではないが高崎駅から車で30分から35分程度で到着する上バス停もすぐ近くにある）、自社物件であれば建築設計から配置まで全て自由に行えるので店舗の中だけではなく外観の世界観も統一できることが理由だとのことでした。この世界観を出すために、店舗をひとつの建物にせず平屋建てにして複数建築したそうです。

日常から少しだけ離れた場所で統一された世界観を体感できるJAMCOVER VILLAGE、ぜひ一度足を運んでみてください。

## 観光ルート 06



日本の  
パラドールを  
目指して

15:00 - はまゆう山荘 (高崎市倉渕町川浦 27-80)



もともとは横須賀市の保養施設でしたが、平成17年に所在地で友好関係にあった倉渕村（平成18年に高崎市と合併）に譲渡されました。昭和63年に第29回建築業協会賞を受賞した建物です。石と木の美しい組み合わせは懐かしさと新しさが同居した斬新なデザインです。施設では宿泊や食事はもちろんのこと、天然温泉の日帰り入浴も楽しむことができ、「美肌の湯」として親しまれています。



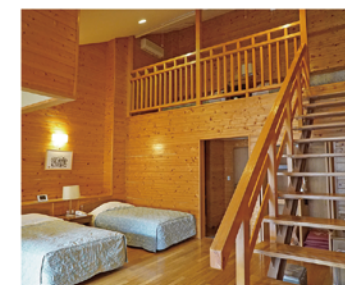
はまゆう山荘敷地内の源泉から汲み上げられるお湯の泉質は、茶褐色透明のナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩温泉。硬くなった肌を柔らかくする効果、不要な角質除去、つるつる肌にする効果、毛穴の汚れ落とし、メラニンを分解する効果などがあるとされており、まさに「美肌の湯」にふさわしい温泉です。



温泉はもちろんのこと、お昼時に訪れた際は海軍カレーを試してみてください。海軍カレーは、横須賀市外のレストランでは、はまゆう山荘でしか提供が認められていません。これは、小栗上野介公に端を発する倉渕と横須賀市のつながり、横須賀市の保養施設であったという沿革、そして現在まで続く両者の良好な関係の成果です。

レポーター田島のお気に入りには吹抜けのロビーラウンジ。ゆったりと過ごせる空間にある暖炉。冬には火が灯り、夜間は自由に薪をくべることができます。時間を忘れてゆったり過ごすことのできるこの空間はとても落ち着きます。

その他、客室やお料理などの宿泊に関連するサービスにも定評があり、長期滞在にも適しています。



はまゆう山荘に（オープン前からなんと30年以上も！）お勤めになっている塚越さんによれば、はまゆう山荘は観光地の周りにできた宿泊施設ではないため、この施設自体を楽しんでいただく工夫をしなければならないそうです。そのため、宿泊施設、お食事、値段の全てに妥協せずに取り組むのは当然として、星空観望会やハイキング等のイベントを開催するなど努力を重ねているそうです。取材した8月には、毎年9月に開催されるぐんまジャズフェスティバル（2018年で21回目）の広報をされていました。

今後は別荘のように長期滞在の場所として、スペインのパラドール（もともとは「休息所」の意味で、景観を活かす、古城を改装するなどして営業しているホテルが多い）のようなゆったりと過ごすことのできる安らぎの場所を目指しているそうです。

施設自体が素晴らしいだけでなく様々なおもてなしの工夫をされているはまゆう山荘。今後も高崎市民みんなの別荘として優れたおもてなしを提供し続けて欲しいと感じました。

観光ルート 07



16:30 - **Albero.** (高崎市下里見町 1701-1) 営業時間 10:00~19:00



フルーツを知り尽くした果樹園が手掛けているため、素材のおいしさを十分に引き出した手作りのやさしさ溢れるジェラートを、果樹に囲まれた自然の中で味わえます。

何度行っても、飽きることなく毎回悩んでしまう Albero. のジェラート。常時 20 種類がショーケースに並びます。ジェラートは、たとえばカボチャ味であればカボチャペーストを買って使用すればいつも同じ味になるのですが、あくまでも代表の山木さんが自ら食材を仕入れて自ら配合して作っています。そのためひとくちにカボチャといっても品種も産地も異なりますので、行くたびに常に違う味が楽しめます。



ちなみに定番の味はバニラくらいで、それ以外は季節の食材で全て入れ替わります。仕入れた食材の使い切りのため一週間で無くなってしまいう味もあるそうで、まさに一期一会！食材はできるだけ地元高崎のものを使用するようにしているそうです。

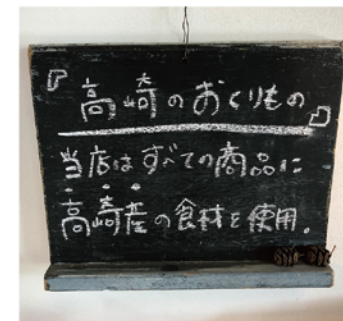
ジェラートのおすすめは、いろんな味を楽しめるプチ3種盛。イートイン、テイクアウトもできます。

季節によっては梨狩りも受け付けており、梨狩りで採ってきた梨は店内ですぐに食べることができます。



Regalo × Regale

隣接してオープンしたRegalo×Regaleは、「高崎のおくりもの」をテーマに、高崎産の食材を使ったオリジナルギフトを展開しているショップ。日替わりのお菓子やスイーツも楽しめます。レポーター堀口のお気に入りにはちみつグラノーラ。オーガニックのオートミールを中心に、高崎の有機全粒粉・平飼たまごなど厳選した材料でシンプルで飽きない味となっていて、小腹が空いたときに手軽に味わえます。ほかにも美味しいお菓子が並んでおり、お土産やギフトにも喜ばれます。



店舗内も都内の小さなカフェのような造りで、店内では美味しいコーヒーや手作りのプリン、ブランジェなどが楽しめます。

Regalo×Regaleの最大の特徴は、なんといっても「当店は全ての商品に高崎産の食材を使用。」という「ザ・高崎」と感じられるようなこだわり。「すべて」と言い切るところが格好いい！ここまで地元食材を前面に押し出すお店はそうありません。パッケージもお店のイメージそのままにシンプルかつスタイリッシュです。こだわりの詰まったRegalo×Regaleの各商品は、ルートの最後を飾る高崎のお土産としてふさわしいのではないのでしょうか。



GOAL

めぐるとかさき  
故きを温ねて新しきを創る

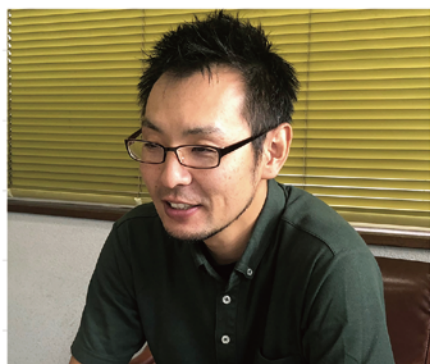


高崎の工芸品と言えばだるま。そんなだるまのなかで、新規性のある商品について3つを取り上げ、掘り下げてインタビューしました。

## KD ダルマ

### KD ダルマって何？

KD ダルマは、現在高崎駅構内の群馬いろはなどで売られているお土産のだるまです。このだるまは従来のだるまとは全く異なる自ら組み立てて自ら完成させるタイプのだるまです。組立てるという発想とコンパクトさに惹かれ、取材を申し込みました。



現在、KDダルマの製造販売の全てを手がけている株式会社エムケイ製作所の松本陽平さん。快くインタビューに応じていただきました。



「KD DARUMA mini」は板紙と呼ばれる段ボールに近い触感の紙を組み立てて完成させる。組立て式にすることにより非常に省スペースな製品にすることに成功している。

### interview

— なぜKDダルマ、組立て式のだるまを製造、販売しようと考えられたのですか。

弊社はダンボールを加工して作る細仕切り(注:段ボール内の梱包に使用されている段ボール製の細い仕切り)を手掛けておりまして、その加工技術を使って何かできないかな、と考えておりました。そんな中、段ボールを使って恐竜を作成し、それをフェイスブックに投稿したところ、私の同級生がそれを見て段ボールで何かお土産などを作れないか、と言ってくれたのがきっかけでした。KDダルマの「KD」は材料を調達して自ら組み立てることを意味する「knock-down」の略称です。このように従来のだるまと変えたところはありませんが、高崎のだるまのデザイン、具体的には縁起だるまの由縁であるだるまの顔の鶴と亀はそのままにしたいと考えました。



たかさきだるまの顔のデザインを踏襲しており、かなり正確に再現されているように感じられる。赤いKDだるまは2018年9月からの新商品。



KDダルマの背面には「OCCS.」のロゴがある。名称の由来から、伝統を大切にしながら新たなものを生み出すという意欲がうかがえる。

— だるまの背面に「OCCS.」というロゴが入っていますね。

「OCCS.」はももとは私を含めた3名で立ち上げたブランドで、温(O)故(C)知(C)新(S)から頭文字をとって「OCCS.」としました。私はだるまの設計・デザインを担当しました。現在は製造販売の全てを弊社で手掛けています。

— 製品化するにあたって苦労された点、工夫された点はありますか。

組立式のだるまを作る、ということだけが決まっていたのですがそれ以外は全て工夫と創作でした。KDダルマは現在2種類で、ベニヤ製で比較的大きな「KD DARUMA」と板紙製で小さい「KD DARUMA mini」の2種類がありますが、類似製品などがない中で文字どおりゼロから治具を作ったのでこれには苦労しました。工夫した点としては、とにかく持ち帰りやすくすることでした。高崎市民にとってはだるまを大きな紙袋やビニール袋に入れて持ち歩くのは見慣れた光景ですが、県外の方はあまりそのようなことはしませんし、外国の方であればなおさらです。また、外国の方が何のために高崎にお越しになるか考えたときに、観光よりもビジネスでお越しになる方が多いのではないかと考えました。そこでビジネスバックにざっと入れられる大きさと厚さにまとめたのです。



パッケージの裏面に組立方法が記載されており、日本語と英語が併記されている。このパッケージもグッドデザインぐんまの部門賞を受賞している。

— かなり細かなパーツに分かれていますので、組み立てるのはちょっと難しそうですね。

誰でも組立てができるように、だるまのパーツをナンバーで分けてそれをパッケージに記載しました。それでも組み立てるのが難しいという方にあわせて、ベニヤ製の「KD DARUMA」については完成品も販売しています。

— 2013年に「魅力ある日本のおみやげコンテスト」で観光庁長官賞(注:食品部門・工芸部門を通じた最高賞)を受賞されていますね。

日本の伝統の品であることやだるまを組み立て式にして持ち運びやすくするという新規性、言ってみれば「古くて新しい」というような点を高く評価していただいたのだと思います。

— 現在、何か検討中の新たな取り組みはありますか。

今年の9月から、2枚の板紙を貼りあわせた赤色のKDダルマの販売をスタートしました。群馬いろはなどで買い求めいただけます。

— 最後に、このKDだるまを手取る方へのメッセージをお願いします。

だるまは縁起物ということもあって、通常はあまり手を加えたりはしないと思いますが、本製品についてはインテリアとしての役割もありますので、自由に文字を書いたり色を塗るなど自由な発想で楽しんでいただければと思います。



魅力ある日本のおみやげコンテストで観光庁長官賞を受賞した際の賞状等。高崎市民にとっては当たり前の存在であるだるまだが、こうしたかたちで全国に認められるのは高崎市民として嬉しい。

デザイナーズだるま



デザイナーズだるまって何？

デザイナーズだるまは、高崎だるまの伝統を大事にしながら新たなデザインでだるまを制作しようという試みから制作されただるまで、高崎市の株式会社今井だるま店 NAYA の代表である今井裕久さんが世に送りだしました。デザイナーズだるま誕生の経緯等について、今井さんにお話を伺いました。



デザイナーズだるま製造の様子。伝統の高崎だるまの製法に則って製造されている。

interview

— なぜデザイナーズだるまを製造、販売しようと考えられたのですか。

高崎で生まれ育った者としてだるまさんを広めたいと思ったときに、まず、伝統のだるまのデザインそのままでは現在の住宅のスタンダードである洋間には合わないと思ったんです。家のデザインに合わなければ、せいぜい神棚に飾っていただくくらいしか用途がなく、室内に飾るものとしての広がりがありません。そのため洋間に合うデザインを考えるところから始めました。プロデュースは、「デザイナー2104」に依頼しました。

— デザイナーズだるまを販売してみて、反応はいかがでしたか。

高崎ですぐに受け入れられるかというの難しいと感じましたので、代官山のインテリアショップなどに雑貨の一部として置いていただくことから始めました。一般的なイメージのだるまとデザイン面でかなり違うものだったせいか多くの方に買っていただくことができました。高崎での販売は5、6年ほど前からです。

— 制作にあたり、変えたくないもの、変えなかったものは何ですか。

高崎だるまの基礎的な部分は全く変えていません。だるまさんの型も伝統の高崎だるまと同じ

ですし、縁起物としての鶴と亀の配置も同じです。デザイナーも、古くからの伝統の価値を大切にしつつ新たな魅力を付け加えるという考え方で、私と同じでしたので迷いはありませんでした。

— では、逆に工夫した点、新しくした点は何かですか。

まず、洋間に合わせやすいようマットなコーティングにし、威圧感を与えず家具とのバランスをとるために白目を外し、目を全てご自身で書き入れていただくようにしました。また、サイドにはイタリア語を書き入れました。「cadere(カレデー)」は「転ぶ」、「rialzarsi(リアルツァルスィ)」は「起き上がる」の意味を持っており、七転び八起きを表現しています。躓くことは次へのチャンスであり決して恥ずかしいことではない、このだるまを見てそのことを感じて欲しいと願っています。

— その他、だるまを広めるために工夫されていることはありますか。

金銀銅のだるまを揃えてメダル代わりに使えるようにする、干支のだるまを販売するなどしていろいろな方にだるまを手にとっていただけるよう工夫しています。また、予約していただければ、だるまさんの絵付け体験や見学などもしていただけるようになっています。

— 今後はどういっただるまを販売していきたいと考えていらっしゃるのですか。

まずはだるまさんを手にとっていただくという考えからデザイナーズだるまを世に送り出したのですが、私としてはやはり伝統あつての創作であるという考えを持っています。そのため、入口はどのようなかたちであっても、最終的にはもっともいろいろな方に伝統ある高崎のだるまさんを手にとって欲しい、魅力を感じていただきたい、それが最終目標です。



高崎だるまとしての型は伝統のものと同じで、傾けても起き上がる。顔の部分に縁起物として鶴と亀がデザインされている点も同じである。



伝統の高崎だるまの絵付けをする今井さん。本社のある上豊岡町にて撮影させていただきました。

めぐるたかさき  
故きを温ねて新しきを創る

DARUMA-CUBE



DARUMA-CUBEって何？

DARUMA-CUBEは、板金の先端加工技術を用いて制作した高崎だるまのデザインをベースにした製品です。大きいものは75cm×75cm×75cmサイズで気軽に持ち帰ることができるものではありませんが、一度見たら忘れられないインパクトがある製品です。今回は制作者で販売元でもある有限会社山崎製作所の代表取締役、山崎将臣さんにお話を伺いました。

interview

— なぜこのようなインパクトのある製品を製造しようと考えられたのですか。

1年に1回、イタリアのミラノで「ミラノサローネ」という世界的な家具の見本市が開催される

のですが、その会場外では「ミラノデザインウィーク」というデザインの祭典が開催されています。知人のデザイナーからその祭典に出たいということでアイデアをいただいたのが制作のきっかけです。

— 製造にあたって苦労された点がありますか。

プロが見るとわかるのですが、DARUMA-CUBEは板金としては非常に難しい製品です。9つのパーツを組み合わせて製造するのですが、溶接の部分が非常に少なく、1ミリでもずれるとばらばらになってしまいます。その点が最も苦労した点ですが、逆に、弊社では技術的にこのようなことまでできるのだ、というアピールにもなります。

— DARUMA-CUBEは、平成27年度グッドデザインぐんまの大賞を受賞されていますね。

これまでどちらかというと地元の素材を使った製品が多かったと思うのですが、DARUMA-CUBEについては、高崎だるまのコンセプトやデザインを活かして製品化したところに興味を持っていただいたのだと思います。なお、DARUMA-CUBEの絵付けは今井裕久さん(注：本冊子P17以下参照)にお願いしました。

— 製品化にあたって考慮された点や工夫された点などはありますか。

高崎の宝であるだるまをこのように大幅に崩して商品化するというのもあって、群馬県達磨製造協同組合の当時の理事長には事前に相談しました。また、実際の用途としてはテーブルを考え、それを伝えるようにしました。その後新たに制作したDARUMA-CUBE HANAはテーブルとしても椅子としても使用できるデザインになっています。

— 高崎市民であればすぐに高崎だるまをベースにした製品であることがわかりますね。



こちらは娯楽業界の大手企業より依頼を受けて製造した「群馬神輿」。写真は見本の小さいもの。高崎だるまなどの県の名産品をちりばめたデザインで、三層構造のかなり細かな作りとなっている。

双方とも高崎だるまの鶴と亀のデザインをあしらっていますので、高崎の製品や商品をアピールする際のテーブルとして使用することも考えられると思います。

— 今後はこういった取組みを考えていらっしゃいますか。

製造業一般に当てはまることですが、お客様からオーダーを受けて製品を製造することが中心で、日常業務や営業の中で技術力をアピールする機会はそれほどありません。そのため、DARUMA-CUBEに限らず、「高崎のものづくりを世界へ」という理念で新たなことにチャレンジしていきたいと考えています。



インタビューに応じてくださった山崎さん。デザイナーだるまとデザインを比較しながらDARUMA-CUBEについて説明いただきました。



DARUMA-CUBE HANAは白を基調にしたデザイン。取材の際に実際に腰掛けさせていただいた。椅子の脚がないようなデザイン性の高い作りだが、スチール製で板金もなされているので丈夫で安定感がある。

編集後記に替えて、高崎青年会議所の理事長と編集メンバーのとおきのおすすめを紹介します。



**田島 圭次郎 /Keijiro Tajima** <宿泊・飲食業>

2009年12月から6年間、期間限定で営業した「高崎田町屋台通り」通称「屋台村」。一人飲み大歓迎、行けば誰かに会える気軽さで市内外の粋な大人たちに好評でした。現在でも10以上の卒業店舗が元気に営業中☆ またあのような「場」をつくりたい!!



**村上 文治 /Fumiharu Murakami** <タイヤ小売業>

珈琲好きの方にオススメしたいのが昭和町にある自家焙煎珈琲のお店「キャラバン」です。1976年に創業以来、世界各地の生豆を取り扱っており、豆の種類は30種類ほどあります。落ち着いた雰囲気店内は焙煎したコーヒーの良い香りがします。コーヒーは酸味がなく、香り・コク・深みがあり後味もスッキリです。軽食も美味しいのでランチもオススメです!



**岸 宏一 /Hirokazu Kishi** <造園業>

保渡田古墳群、特に榛名山麓をバックにした夕暮れ時の八幡塚古墳は人間の可能性を感じることができます。最近ではポケストップや、インスタグラムでも注目されていますが、古墳をステージにしたライブや演奏会を見てみたいです。



**三木 昌美 /Masami Miki** <美容業>

私のサロン近くにある創業明治13年老舗パン屋、日英堂のサラダパンがオススメ!素材にこだわっているので小さなお子様も安心して食べられます。私の娘も大好きです。



**上原 菜摘 /Natsumi Uehara** <印刻師>

私が生まれた街、本町通りがお勧めです。創業161年のお茶屋さん水村園や、パン屋のこのえぱん、名品を揃える酒屋大塚酒店、新しく出来たお店ではチンズバーガー、マトカ、伊藤屋コーヒー、ハウワット、ピースカフェ、などひとつの通りに良い店が集まっています。是非遊びに来て下さい!



**堀口 亜希子 /Akiko Horiguchi**  
<Water drops ~flower&Lesson&羊毛フェルト>

今、樽通りが熱い。灯り屋のカレードリアは絶品。高崎唯一のシンキチのクラフトビールはみんなに飲んでほしい。最近のマイブームはオーバ7F高崎じまんの焼きまんじゅう小町。焼きまんじゅうの可能性は無限大。



**小林 快志容 /Yoshiyasu Kobayashi** <保険業>

唐揚げ大好きなので農大二高の近くにあるえびす弁当です!今でも月1で食べてます。



**三浦 興寛 /Koukan Miura** <住職>

私のおすすめはお寺近くにあるラの口です!もう1件は味一味です!両方とも自宅近くなのですがおすすめでーす!



**磯部 貴志 /Isobe Takashi** <自動車販売・車検・保険業>

蕎麦好きで有名な私がオススメする高崎の名店は、「蕎麦処つゆ下梅の花 本店」です。全国各地そばを食してきましたが、こちらの新蕎麦は別格です。今でも月3回は必ず伺います。有名店かと思いますが、是非一度お召し上がりください。



**土屋 耕平 /Kohei Tsuchiya** <アプリ開発>

僕の高崎の好きな場所は、烏川の和田橋河川敷です!春にはBBQ、夏には花火、秋にはスポーツ、冬には稚魚の放流など思い出がたくさんある場所です!



**工藤 和雅 /Kazumasa Kudo** <花屋>

本好きの方にオススメなのが中居町の「本の家」です!群馬県内唯一の子ども本の専門店、絵本や児童書が中心ですが大人でもワクワクすること間違いなしです!お店も可愛いですよ!



**田島 慎太郎 /Shintaro Tajima** <弁護士>

高崎の方でも、観音山の洞窟観音に行ったことがある方は少ないと思います。事業に成功し財を成した故山田徳蔵氏が私財を投げ打ち、逝去まで45年の歳月をかけて作り上げていった観音像の数々。やはり最後は自分のやりたいことをやるのが一番です。